

# 光鯨会だより

第30号 [令和3年7月]

発行 | 光鯨会  
会長 | 小野 徹郎 (S43)  
本部長 | 井戸田 秀樹 (S58)  
連絡先 | 佐藤 篤司 (H10)  
☎ 052-735-5200  
✉ koukokai@archi.ace.nitech.ac.jp

HP | <http://koukokai.jp/home>

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 社会工学科 建築・デザイン分野内

## I | 会長挨拶

### □会長挨拶 「再会を願って」

小野 徹郎 (S43) 光鯨会会長／名古屋工業大学名誉教授



光鯨会会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。世界中がコロナに振り回されています。我が国ではあのクルーズ船の件からはや1年半を経過していますが、何が進展し何が問題なのかもはっきりしないまま、政府はワクチン接種を盾にオリンピック開催に向けて突き進んでいます。そうしたなかでIOCの副委員長の日本の主権を超えていると思われる発言「緊急事態宣言の中でもオリンピックは開催する」、バツハ会長の「我々はいくつかの犠牲を払わなければならない」との発言に違和感を唱えない日本オリンピック委員会の対応に驚かされます。この状況下で、昨年の光鯨会本部総会、関東支部総会は延期、関西支部総会も遠隔で開催されましたが、今年の本部評議員会も遠隔、総会は見送りになりました。再び会員の皆様と直接お会いする機会を失いました。しかし遠方の評議員の方々の出席を得てご意見を伺えましたことは、リモート会

議のプラスの効果ではないかと思えます。

名古屋も新規感染者数が東京を超える時もあり、名工大も多くの活動を制限しています。実験や実習などは再開されているようですが、学生生活では、キャンパスで顔を合わせてお互いコミュニケーションを交わすことで得ることは多く、日常の大学生活を早く取り戻せることを願っています。

会員各位には日頃から光鯨会の活動にご協力いただき深く感謝申し上げます。会長就任以来、会員の皆様をお願いしております会費の納入や会への寄付につきましては、皆様方のご協力により少しずつ増加傾向にあります。評議委員会で提案いただいた、寄付の受け皿としての「鯨ボックス」に対しても多くの会員の方々からご賛同を頂きましたこと厚く御礼申し上げます。引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。

会員の皆様には、コロナ禍が終焉し再会できることを願ってやみません。お元気で過ごしてください。

## II | 大学は今

### □分野長挨拶

楠原 文雄 (TOK) 名古屋工業大学社会工学教育類長／建築・デザイン分野長／名古屋工業大学教授



光鯨会会員の皆様方には、常日頃より、学生および教員に対して温かいお心遣いをいただきますとともに、幅広くお世話になっておりますこと、教員を代表して心より感謝申し上げます。教員の動向としましては、30年の長きにわたって教育・研究の両面で本分野を支えてこられました麓和善教授 (S54)、デザイン系の教育・研究の中心を担ってこられました井上雅弘教授、藤岡伸子教授、須藤正時准教授の計4名の教員が、2021年3月末日をもって退職されました。一方、2021年3月に新たにChen Ye助教 (DR02) が着任しております。全学の役職員では、学長特別補佐 (寄附金、同窓会担当) およびつくり領域長を河辺伸二教授 (S59) が、学長特別補佐 (キャンパス整備担当) を須藤美音准教授が、高度防災工学研究センター長を井戸田秀樹教授 (S58) が務めております。

昨年度は、いわゆるコロナ禍の中、学生も教員も手探りで日々の活動を進めてまいりました。特にデザインスタジオで半ば生活をともにしながら切磋琢磨するという本学の特色でもある環境は断念せざるを得ませんでした。講義科目は録画

した動画教材の視聴による形式で1年間行われ、演習・実験科目は後期からようやく対面での実施が可能となりました。今年度になり、デザインスタジオの利用再開の検討を進めるなど、感染拡大防止とのバランスを模索しながら少しずつ進めております。

また、2020年度入学生より、建築系／デザイン系の分属を廃した新カリキュラムが始まり、彼らが2年生となる今年度は、新カリキュラムにおける専門教育が本格的に始まっております。この新カリキュラムは、建築・都市から生活用品まで、すべての「もの」を機能的で美しく創造するために必要な発想法や技術を身につけた人材の養成を目指し、110年を超える本学の建築学教育の伝統を母体としながら、デザイン系創設以来のデザイン学教育の実績も生かしたものです。建築設計製図などをより充実させる一方で、従来のデザイン系科目の一部を全員必修とするなど、全国的にも特色ある教育体系となっております。

このような時世ではございますが、皆様方におかれましては、近くへお越しの際には、是非、気軽に母校の門をくぐっていただき、現役の学生や教員を叱咤激励いただければと存じます。

## □新任教員挨拶

Chen Ye (DR2) 名古屋工業大学助教



2021年3月より建築・デザイン分野の助教として着任しました。中国山東省の出身です。中国の同済大学と名古屋工業大学の建築・デザイン分野の博士前期課程でのダブルディグリープログラムに一期生として参加し、2014年4月に同済大学の博士前期課程、2014年9月に名古屋工業大学の博士前期課程を修了しました。その後、3年間、上海の同済大学建築設計研究院（集団）有限会社で建築設計に従事し、2017年10月から名古屋工業大学の博士後期課程へ進学

し、2020年9月に博士（工学）の学位を取得しました。

今は、日本と中国における風土を考慮した現代建築物の考察に基づく地域建築の新構法の提案に取り組んでおります。それらの成果を、世界中の国や地域での建築構法の研究に展開し、その上で、これまでの建築構法に表される技術、文化、意匠の潜在的なメカニズムを明らかにし、材料や構造といった他の専門の技術者と積極的に連携し、未来の社会や科学の発展に貢献できる研究や開発に従事していきたいです。また、教育においては、授業でも授業外でも、学生の目線に立った指導に力を入れつつ、オリジナリティーと創造性の育成もできるよう、精一杯努めてまいります。若輩者ではございますが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒、宜しくお願いいたします。

## □退官教員挨拶

麓 和善 (S54) 元名古屋工業大学教授



退職のご挨拶にかえて、近況を報告します。

現在も文化財関係の委員を続けていますので、ひと月に20日程度は外に出ています。

委員会としては、城跡の石垣整備が多く、北から順にいうと、五稜郭、弘前城、金沢城、興国寺城（沼津）、刈谷城、名古屋城、小牧山城、犬山城、郡上八幡城、彦根城、姫路城、鳥取城、丸亀城など

で、このうち弘前城、彦根城、丸亀城では天守ほかの耐震の検討、金沢城、刈谷城、名古屋城、鳥取城では、天守・門・御殿の復元に関わっています。

また、文化財の保存修理として、重要文化財では諸戸家住宅（桑名）、早川家住宅（海津）、仁風閣（鳥取）の修理委員会に関わり、県・市指定の文化財では洲原神社中央本殿（美濃）、創垂館（小牧）の修理工事の設計監理を行っています。

残る10日ほどは執筆活動で、松本城、洲原神社の原稿を終え、神山復生記念館（御殿場）、大石寺五重塔（富士宮）の修理工事報告書を執筆中です。

井上 雅弘 (TOK) 元名古屋工業大学教授



2013年から8年間、企業生活とは全く異なる楽しい体験の連続でした。学生と訪れたミラノやシンガポール、台湾や韓国でのひとときも忘れることはできません。今はそうした経験を生かし、海外インターンシップを希望する学生たちを創造工学教育推進センターからサポートしながら大学の違った側面を体験中です。ということでもうしばらく大学にいますので、今の状況が早く明け、ご一緒いただけることを祈りつつ、乾杯！



30余年お世話になった名工大を3月末に定年退職いたしました。着任時には、一般教養を担当する部局に所属していましたが、2004年に組織再編でデザイン分野が新設されることとなり、創設準備に関わることになりました。新学科が発足して以降は、建築・デザイン工学科の仲間に加えて頂き、新しい世界での楽しい日々が始まりました。研究室では建築系・デザイン系両方の学生を受け入れる機会を得たことで、自分自身の知識も経験も大きく広がったと実感してい

ます。また、こうした17年間の建築・デザイン分野での教育研究活動を通じて、元来関心を寄せていた、歴史・文化を背景とした風景創成にかかわる現場にも携わることができました。特に東濃・加子母での地域づくりには8年間携わり、退職後の現在も地域運営に関わらせて頂いています。また2014年からは、学長特別補佐として男女共同参画推進を任されることとなりました。退職までの7年間、苦闘の連続でしたが、それでも現在「ダイバーシティ推進センター」として、全国的に注目される施策が整った組織へと成長させる務めを果たせたのは、振り返れば貴重な体験でした。あれもこれも、名工大の後ろ盾あってのこと。今改めて心から感謝しております。

## □卒業生の活躍



この度、2021年日本建築学会奨励賞を受賞いたしましたこと、大変光栄に思います。これもひとえに、光鱈会会員本学教授の河辺伸二先生や、多くの学生、関係者の皆様による研究への多大なるご支援のおかげと感謝しております。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

さて、本件受賞では、「準マイクロ波による融雪用発熱モルタルブロックの基材層の厚さが電波吸収性能に与える影響」について執筆した論文をご評価いただきました。本論は、産業副産物である電気炉酸化スラグの電波吸収性能を活用した「発熱モルタルブロックによる融雪装置」についての研究成果を示したものです。この融雪装置は、産業副産物の有効利用に繋がる新しい領域の融雪装置です。従来の

融雪システムよりも表層で発熱させることができ、熱負荷が集中しないため、迅速に雪を融かすことができます。降雪地域に住まう人々の除雪作業が少しでも楽になればと考えて研究を続けて参りました。

本論ではこの融雪装置の核となる発熱モルタルブロックの電波吸収性能を算出する方程式を提案し、発熱モルタルブロックの電波吸収性能の基準を定めました。これにより、発熱性能の高い発熱モルタルブロックが安価に製造できるようになりました。

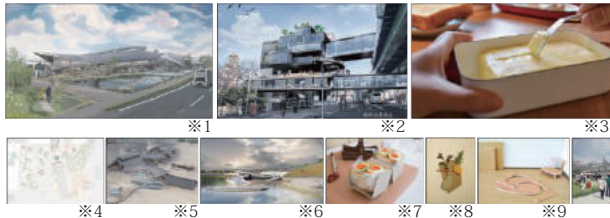
また、発熱モルタルブロックは融雪システムでの活用だけでなく、これまで強度の問題で難しかった床用の電波吸収材としての活用も見込まれる将来性の高い建築材料に発展しています。

今後も、電波・スラグ・融雪の研究を軸に、花粉吸着建材や知的財産権による技術分析など様々な分野へ展開しながら研究を進めていこうと考えております。研究活動と教育活動を生活の基盤として、今後一層精進して参りますので、光鱈会員の皆様にも応援していただければ幸いです。

## □学生の活躍

### 夏目 欣昇 (H5) 名古屋工業大学准教授

この一年の学生の活躍を報告いたします。光誠会賞には2作品、近藤宏樹さん(建築系)<sup>※1</sup>の「旬鮮市場」と沢田雄基さん(建築系)<sup>※2</sup>の「都市水景再生」が輝きました。分野長賞には繁水優さん(デザイン系)<sup>※3</sup>の「surutto うすーく削ってきれいにぬれるバターナイフ」が選ばれました。また、学外コンペ・発表等にて多数の学生が表彰され、建築・デザインの現役生は多彩な力を発揮しております。



学業優秀者を讃える光誠会学生奨励賞は20名が受賞しました。

#### ■光誠会学生奨励賞受賞者(敬称略)

第4学年:加藤健一、園部裕子、大塚颯帆、近藤爽子、坂井俊介、繁水優、東明里、  
第3学年:小石雅也、鈴木一史、児玉英世、坂田美典、中山朋紀、濱田紗希、中村瑠、  
第2学年:飯田咲哉、井上祐記、神戸帆乃香、鈴木航、竹本彰吾、浅田慎伍

#### ■その他の学生の活躍(敬称略)

Design Review 2021 古森賞 近藤宏樹<sup>※1</sup>、同高木賞 鈴木音々<sup>※4</sup>、NAGOYA Archi Fes 2021 岩月美穂賞 沢田雄基<sup>※2</sup>、同塚本由晴賞 長谷真彩<sup>※5</sup>、第26回 JIA 東海学生卒業設計コンクール 2021 銀賞 長谷真彩<sup>※5</sup>、同佳作 谷俊榮<sup>※6</sup>、同入選 沢田雄基<sup>※2</sup>、JIDA 中部ブロックデザイン賞 最優秀賞 北島果林<sup>※7</sup>、同優秀賞 森悟<sup>※8</sup>、同特別賞 筒井吹良<sup>※9</sup>、第8回 ヒューリック学生アイデアコンペ 優秀賞 大崎拓実・杉山莉奈<sup>※10</sup>、第8回 POLUS-ボラス・学生・建築デザインコンペティション 優秀賞 田上功也・藤田倫也<sup>※11</sup>、2020年度日本建築学会設計競技 東海支部入選 岩崎翔太・井村春菜・杉戸亮介・堀裕和<sup>※12</sup>、建築新人戦 2020 16選 佐藤歌弥<sup>※13</sup>、タイニーハウス小管デザインコンテスト 2020 YADOKARI 賞 中山晋吾<sup>※14</sup>、第12回建築コンクール「ねちこい建築」佳作 大崎拓実<sup>※15</sup>、第1回全国建築学生賞 優秀賞 大崎拓実<sup>※16</sup>、日本コンクリート工学会中部支部 令和2年度学生研究発表会 優秀講演賞 井上裕太、2021年日本建築士学会奨励賞 中垣琴葉・高間健太、同優秀回答賞 中垣琴葉、同優秀賞回答 松本英利、2020年度日本建築学会東海支部学生優秀学術講演 横井英・林拓朗・清水将喜・森元大成 他

## III | 卒業生は今

### □実施方法・情報配信方法

#### 佐藤 篤司 (H10) 名古屋工業大学准教授

##### 光誠会(同窓会)

12月中旬にOB・OGからの企業紹介(業種紹介)の動画をアップ

- 1. 2月中旬にOB・OGからの企業紹介(業種紹介)の動画をアップ
- 2. 返信・要望などをコメントください
- 3. 設計事務所
- 4. 伊藤建築設計事務所 (60年創立 2011年度卒業)
- 5. 志ガ
- 6. 告知開庁 (高野有実 H28年度)
- 7. ゼネコン
- 8. 大成建設 (100周年 2016年度卒業)
- 9. ハウスメーカー
- 10. トヨタホーム (水谷敦志 H25年度卒業)
- 11. インフラ
- 12. 中部電力 (藤村英 H20年度卒業)

新型コロナウイルスの影響により、大学での教育はオンライン講義に移行したことは、報道などでご存知のことと思います。講義形式のみならず、オンライン講義を運営する教育システム(プラットフォーム)も積極的に利用されるようになりました。名工大では、「Moodle」と呼ばれるプラットフォームを活用しています。Moodleは、講義資料の掲載(動画やプリント)、課題提出、学生のログ管理など、学習管理システムとして多様な機能を備えています。実はMoodleは私が着任した2010年には既に大学に導入されていたものですが、必要性が高く無かったことから(コロナ以前はオ

ンライン講義が認められていなかった)、あまり普及していませんでした。

そこで、2020年度のOB・OG交流会は、このMoodleを活用し、先輩方の収録動画を建築学生に公開する形式としました。動画内容に対する質問も受けられる仕組みとしました。就職活動が活発になる12月に動画を公開し、多くの学生に視聴してもらうことができました。講演者への質問も学生からあるなど、初めての試みでしたが、有益な場になったと感じました。(写真はMoodle上の表示画面)



## □本部

### 鏡味 亮 (H21) 中部電力パワーグリッド(株)

2011年3月に大学院を卒業後、中部電力(株)に入社してから10年が経過し、主に火力発電に係る計画・建設・保守などの業務に従事してきました。

弊社は、2019年4月に既存火力発電事業等を(株)JERAへ統合完了し、2020年4月に電力システム改革における発送電分離により分社化がなされ、近年会社組織がめまぐるしい変遷を辿ってきています。

現在、(株)JERAに出向し、火力発電所の建築設備保守やBCP対策などの工事監理をしています。建築技術者として、建築設備に関するあらゆるニーズに応え、安全・安価で良質な建築設備(空間・環境)を提供することや、安定供給に係るすべての事業(人・建物)を支えるため、日々精進しています。

一方、先般の新型コロナウイルスを契機に、テレワーク主体の働き方を実現するため、IT技術の最大限活用や会社規則

の改訂などスピード感をもって実施してきており、今後のダイバーシティ&インクルージョン推進の礎になるものと実感しています。

今後も、「くらしに欠かせないエネルギーをお届けし、社会の発展に貢献する」という社会的使命を果たし、「あたりまえ」を供給し続けて参ります。



西名古屋火力発電所(株)JERA HPより

## 松本 拓也 (H24) (株)伊藤建築設計事務所

名古屋市に本社を置く組織設計事務所、伊藤建築設計事務所に入社して7年が経ちました。これまでに担当してきたプロジェクトは、保育園、銀行、オフィスビル、中学校、文化ホールなど。振り返ってみると民間・公共の比率は半々程度でした。

近況報告に変えて、今年の3月に竣工した担当物件をご紹介します。愛知県北東部の小さな火葬場で、近隣3町村合同で利用される建物です。

火葬炉設備廻りには耐火性が必要なため構造躯体はRC造を基本としつつ、全体の7割程度の屋根を木造として地域産材を使用しています。

故人との別れの間となる炉前ホールでは高窓からの天空光を、待合ホールに続く通路では地窓からの落ち着いた反射光を取り込むなど、場所ごとに天井の高さや窓の位置を変えて光の環境を変化させてい

ます。霊柩車の到着から火葬、待合、収骨までを一筆書きの経路で結び、会葬者の気持ちに寄り添って遷移する空間づくりを目指しました。



## 水谷 詠未奈 (H25) トヨタホーム(株)

トヨタホーム株式会社に入社して9年目になりました。入社後は販売会社に出向をして、最前線で営業を2年、設計を1年担当し、帰任後は設計建設推進部という部署で、全国の設計スタッフの方向けに設計コンペを企画・開催したり、設計研修を開いて講師をしたり、お客様との打合せのサポートをしたり、設計での困りごとをまとめて開発部門へフィードバックしたりと、あらゆる業務を担当しております。最近では私自身も含めて在宅勤務が中心になり、お客様の家へのニーズもコロナの影響を受けて、在宅スペースや、玄関近くのおかえり手洗いスペース等、変化を実感する毎日です。

また、Instagramをはじめとした、SNS上で住宅

の情報をお客様自ら得たり、発信される時代となり、設計者として求められる知識・提案レベルも日々とても高くなっていると体感しています。

元々は家づくりに関わる商品開発をしてみたいと思い、入社した会社も、配属された部署は当初の希望通りではありませんでしたし、営業も自分では選ばない職種ですが、やってみたら面白く、人生なにが起るのか分からないなと感じています。

日々勉強が必要で、覚えることも沢山の大変な業界ではありますが、刺激を受けながら、この先も時代に沿ったより良い住まいを提供できる一員でいられたらと思っています。

## 加藤 徹平 (H29) 大成建設(株)

大成建設に入社し、現場監督として働き5年目となります。入社後のプロジェクトは、研究施設、物流倉庫、商業施設、事務所ビルを経験し、現在東京でオフィスビルの改修工事を担当しています。

工事係として、日々の作業の調整・資材の手配・工事写真記録などで走り回っていた時期が過ぎ、工事の計画やお金の管理を考える責任ある立場に最近少しずつ変わってきたと実感しています。

印象深く残っているプロジェクトの一つが、「名港ビルディング建替プロジェクト」作業所です。この現場の井上所長は、名工大の施工学の授業を一部担当するとともにリクルーターとしても活動している方です。自然と、現場見学やインターンで来る生徒も多くなるので、見本となるような現場の維持・

管理をするよう日々意識していました。

所長の人柄が反映された現場で、若手の育成に重きを置いてあり、自由でありながらも責任をもって業務にあたることができました。

昨今、建設業界自体も急速にICT化や、働き方改革が進んでいます。僕らが新しいことに適応し、技術的にも成長して活躍していきたいと考えています。



名港ビルディング建替プロジェクト外観

## □関東支部

近藤 伸一 (S61) 応用技術(株)



卒業後ゼネコンに就職してから35年が過ぎ、5社目になる今の勤務先はSIerです。建築雑誌2021年6月号でも頻出している「BIM」に関して、前職含めて15年程度かかわってきているのですが、その昔から業界団体で活躍し

ている卒業生の方々をご存じでしょうか？

今でこそ大所帯となったBuilding Smart Japanですが、当時IAIと呼ばれていたころから代表理事、理事、リーダーなどに本学の卒業生が名を連ねていました。それも東京の会議の場においてです。正確にはIFCというファイルフォーマットの活用がテーマでしたが、この活動や検討内容は今のBIMの普及に関連するものですので業界団体側からけん引してきた立役者たちといっても過言ではないでしょう。

「BIM」が企業において実践的なものになってくると、総合生活文化企業の役員が自社におけるBIMの実践と将来コンセプトを対外的に発信されたり、国

立研究開発法人の方が建築確認申請におけるBIM活用の研究発表を続けています。こちらも皆本学の卒業生です。そして現在はもっと多くの卒業生が「BIM」にかかわっておられるものと推察します。

「BIMはコンセプト」というのは私の口癖でもあるのですが、実態のない「BIM」に対して100人100様の思いが交錯し、CDE、IPD、LOD、Generative Design、Digital Twin、IoT、GIS、Additive Manufacturing、Smart City、ISO19650、Digital TransformationなどとBIMを「つなげる」事例が多くなってきました。

賢明な皆様は「BIM」に振り回されることはないと思いますが、100人100様に「BIM」の概念を理解し活用することは、結果として企業競争力や自らの作業効率を高める手段になるものと私は考えています。それは結果としてゆとりある人生につながるのだと。本学卒業生が切り開いてきた建設業の新しいビジネス分野と既存の業務分野との融合で、ぜひ明るい未来を手に入れていただきたいと思います。

## □関西支部

花井 伸明 (H10) 九州産業大学

私は2000年に大木建設株式会社に入社し3年あまり技術研究所に勤務しましたが、思うところあって退職、大学院博士後期課程に再び入学しました。修了後、2007年から九州産業大学に勤務しています。

九州産業大学は福岡市東区、玄界灘を望む丘陵地に立地する大学です。文系・理系・芸術系の各学部を有する総合大学であり、それだけに学生の雰囲気も名工大と異にします。2017年には理系学部を再編し、建築学科は工学部から建築都市工学部に移りました。教育の特色として、少人数によるきめ細かい指導に力を入れており、1・2年次は各教員が10名前後の学生を受け持つクラス担任制を取っているほか、建築学科では3年次から研究室に配属し4年次の卒業研究に向けた指導を早期に始めています。

講義は鉄筋コンクリート構造や構造力学などを担当しておりますが、最近は“構造離れ”などとも言われるように構造系の科目が苦手な学生も増えており（多くの大学でも同様だと思います）、如何に教えるか苦心しています。研究面においては、近年

は左右の梁に段差を有するRC造柱梁接合部の研究に力を入れており、研究室の学生達とともに実験室で汗を流すのがライフワークとなっています。

昨年からのコロナ禍により一時はオンライン授業を余儀なくされましたが、現在は座学の一部でオンラインを併用しつつ対面でのゼミ指導や実験指導ができています。しかしながら、研究室の飲み会ができないのは寂しい限りです。

今後とも、建築学の発展と将来の建築業界を担う次世代の育成に微力ながら貢献して参りたいと存じます。



九州産業大学のキャンパス風景

## IV | 光鯨会は今

### □本部だより

山川 博幹 (S60) 本部幹事長 / (株)中部新都市サービス



幹事長の山川です。左の写真は、4月に自宅の満開のバラの前で孫と撮ったものです。昨年春から、緊急事態宣言とは関係なく休日は極力出かけないよう心掛けて

いますが、暇を持て余しがちな「おうち時間」の大半を孫が有意義な時間にしてきています。現在9か月、離乳食を食べさせ、おむつを替え、一緒におもちゃで遊んでいるとあっという間に時間が過ぎます。コロナ禍のタイミングで孫を与えてくれた神様には感謝しかありません。

さて、光鯨会では昨年に引き続き、総会・懇親会を中止とさせていただきます。コロナの感染拡大が続く中、移動と集合を伴うイベントの開催は慎むべきとの判断です。貴重なOB交流の機会を持てなかったことは、本当に残念です。

幹事会は昨年5月以降、ずっとZoomにより開催

しています。仕事でも、以前は皆無でしたが、オンライン会議の設定が増え、少しずつ慣れては来ましたが、やはりなんとなく伝わりにくいなと感じてしまいます。オンラインに即した作法なりテクニックなりが求められているのかもしれませんが、なかなか身に付きません。

それでも、幹事各位の多大な協力により、昨年10月に、光鯨会単独で見学会を開催することができました。今から考えると、第3波がやってくる直前の絶妙なタイミングで、多くの会員の参加をいただき、感染対策にもご協力いただきながらの実施で、よかったという声もいただいたところです。

今年度も春の見学会は実施できず、秋に開催ができないか検討中です。開催が決まればご案内させていただきます。

引き続き、光鯨会の活動につきまして、ご支援、ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

### □第15回光鯨会特別講演会

夏目 欣昇 (H5) 名古屋工業大学准教授

光鯨会100周年を期に主に現役学生向けに実施する本企画、15回目となる今回は、30歳代の若手OB：栗本祐輔さん(H15卒)・本田輝明さん(H18卒)ともに(株)三菱地所設計、で活躍のお二人に講師を依頼いたしました。

2020年は、年度当初からコロナ禍にあり、学内での講演等イベントは不可でしたが、収束を期待して、また対面実施を望んで実施計画を立てました。計画中、講師へは断続的に活動・移動制限が課せられ、会告寸前まで進めた計画が白紙になるなど苦心する中、大学院講義と連携して、2021/4/19(月)、対面をメイン(NITech Hall, LI:NCs、参加41名)、リアルタイムオンライン配信をサブ(Teams、参加2名)として、適切な管理のもと開催いたしました。

演題は「若手OB働き方を語る」。大手組織設計事務所で意匠設計者として働く両講師が、組織設計について、担当作品の紹介、学生時代から今までの遍歴などをお話くださいました。働く様子をリアルに現す月間/週間の仕事カレンダー、お二人が15年

ほど前の学生時代に悩み考えたことが現在の設計・デザインの核となっている等の多くのメッセージは出席学生に強く響くものでした。講師の経験を踏まえた質疑応答からも学生は将来を具体的に考える契機を得たと思います。事後の問題はなく、学生にとって大変有意義な会となりました。講師をお受けくださった栗本さん・本田さんのご尽力、ならびに後輩への熱い想いに改めて感謝申し上げます。



### □2020年度年会費納入者、終身会員加入者、寄付者 2020/12/8~2021/6/22にお手配くださった方を記載(敬称略)

**年会費納入者** [S43] 風間昭彦、[S45] 鈴木壽郎、[S46] 堀井國雄、[S49] 南源司、[S52] 三宅宏、末永俊彦、牟田潤一、[S55] 谷口裕、[S58] 武田敏史、中澤敏樹、渡邊陽平、[S59] 高倉秀充、[H1] 生本孝幸、[H3] 杉浦盛基、[H4] 半谷公司、[H5] 深見直子、[H6] 佐藤正幸、[H10] 巢元剛、[H11] 小島邦裕、中川康弘、[H14] 鈴木冬季、[H22] 西本真代、[H24] 荒金賛太、伊藤公人、[H25] 石原昌紀、[H26] 長谷川千紗、[H27] 帯名海晟、[MS43] 日比龍美、[MS57] 城戸康近、[準会員] 井村春菜、**寄付納入者** [S40] 小栗鉄夫、[S43] 内藤克己、[S45] 須山一彦、[H25] 石原昌紀

※鯨ボックスへの寄付は随時受け付けております。

## □関東支部だより

末廣 晃一 (S58) 関東支部長／(株)大林組



今年度から2年間、関東支部長を務めさせて頂くことになりました末廣と申します。

まずは自己紹介です。

私は昭和58年(1983)に卒業(小野研)、(株)大林組に入社し一般の構造設計を約10年、以後は原子力施設の構造設計に約30年ほど

携わってきました。世間はコロナ禍で大変ですが、原子力も福島の事故以降はとても大変です。個人的には、少々浮世離れした世界に長く居すぎた感もあります。

支部の活動は、引き継いだばかりでもあり、私から報告することは特に無いのですが、コロナ禍の中でも、幹事会社の引継会は「面着で」しっかり行いました。昨年度は、コロナ禍のため支部総会は中止となってしまいましたが、昨年の幹事の方々にはオ

ンラインの役員会など、色々と道筋を付けて頂きまして感謝しております。今年も状況は劇的には改善しておらず、見通しはちょっと暗いとは感じておりますが、精一杯やっていきますので、宜しくお願い致します。

早くワクチンが行き渡り、日常が戻って来る事を切に願っております。

2021-04-09 引継会の様子



〒108-8502 東京都港区港南2-15-2 品川インターシティB棟  
(株)大林組 (03-5769-1111)  
関東支部長 末廣 晃一 (S58)、副支部長 吉井 正行 (S58)  
副支部長 鈴木 孝彦(S59)、連絡担当者 田中 薫 (S63)

## □関西支部だより

小山 明 (S59) 関西副支部長／サンヨーホームズコミュニティ(株)

緊急事態宣言が発出され、社会活動がWithコロナ仕様となり、支部の活動も対面から軒並みWebを活用したミーティングに切替え、可能な方法の中で最善を目指しながら継続しています。これまで、堂島の中央電気倶楽部で行ってきた講演会&幹事も、Web併用のハイブリッド方式からWebのみへ変遷し、事務局の運営も極めてスムーズになってきました。

Webは物理的距離をなくしてくれます。支部規約には「近畿2府4県およびその以西に在住する光鮪会会員により構成する」とあり、遠隔地の方々のコンタクトが課題でしたが、今ではWebを逆手に取り、遠隔地の方に講師をお願いしたり、他支部や工業会の他の単科会へもご案内しています。

2月には名古屋から(株)日建設計杉原盛基様(H03)竹中工務店岡田秀明様(S63)下野耕一様(H05)に2元中継で【登録文化財「名古屋テレビ塔」の免振改修】について、また6月には(公財)中国地域創造研究センターの宮本茂様(S57)に【小さな賃貸住宅「テラスコート牛田旭」建設物語】をご講演頂きました。宮本様には広島から画面共有しながら多く

の写真を使い、広島特有の土砂災害危険傾斜地に隣接する相続地にある実家の古民家を、県産材を使った賃貸住宅に建て替えることで、多額の造成費用を捻出しながら、安全で地域に開かれたコミュニティを実現した、ご自身が手掛けたPJの工夫と苦労をお聞きし、講演後は様々な観点から質問をさせて頂き、Webだからこそ実現した身近さの講演会でした。

8月の幹事会、秋の支部総会でもWeb講演会を計画しています。ご案内しますので、他支部の皆さんも振るってご参加頂けたらと思います。



テラスコート牛田旭

〒541-0053 大阪市中央区内本町4-1-13  
(株)竹中工務店大阪本店 (090-3166-8456)  
関西支部長 中尾 勝悦 (S59)、副支部長 小山 明 (S59)  
事務局長(連絡担当者) 中瀬 知幸 (S59)